

CLUSTERPRO
MC RootDiskMonitor 2.7
for Windows

CLUSTERPRO
MC StorageSaver for BootDisk
2.7 (for Windows)

イベントログメッセージ一覧

© 2022(Apr) NEC Corporation

- はじめに
- RootDiskMonitor の運用メッセージ
- その他のメッセージ
- 障害解析情報の採取

改版履歴

版数	改版	内容
1.0	2015.3	新規作成
2.0	2016.3	バージョンアップに伴い改版
3.0	2017.4	バージョンアップに伴い改版
4.0	2018.4	バージョンアップに伴い改版
5.0	2018.6	障害解析情報、商標の記載を修正
6.0	2019.4	バージョンアップに伴い改版
7.0	2020.4	バージョンアップに伴い改版
8.0	2021.4	バージョンアップに伴い改版 自動閉塞メッセージを追加。パラメーター追加に伴い、コンフィグレーションに関するメッセージを追加。
9.0	2021.4	障害解析情報を更新
10.0	2021.9	iStorage StoragePathSavior 9.0 for Windows に対応
11.0	2022.4	バージョンアップに伴い改版 コンフィグレーションに関するメッセージの下限値の記載を変更 ・TimeDiskFault、TimeDiskStall

はしがき

本書は、CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.7 for Windows(以後 RootDiskMonitor と記載します)、および CLUSTERPRO MC StorageSaver for BootDisk (for Windows) の出力するイベントログのメッセージの意味と対処方法について説明したものです。

(注) StorageSaver for BootDisk は、以後 RootDiskMonitor と表記します。

- (1) 本書では、【インストールフォルダー】を"C:\Program Files" とします。
- (2) 【 windir 】は環境変数の値で、通常は"C:\WINDOWS"です。
- (3) 商標および登録商標
 - ✓ log4net は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
著作権、所有権の詳細につきましては以下の LICENSE ファイルを参照してください。
【インストールフォルダー】\HA\RootDiskMonitor\bin\LICENSE.txt
 - ✓ その他記載の製品名および会社名は、すべて各社の商標または登録商標です。
 - ✓ なお、本書では®、TM マークを明記しておりません。
- (4) 本書では、RootDiskMonitor で出力されるイベントログのメッセージを説明します。

なお、パトロールシーク機能のイベントログのメッセージについては、以下のマニュアルに記載しております。

「CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.7 for Windows パトロールシーク機能 ユーザーズガイド」

また、HW-RAID 監視機能のイベントログのメッセージについては、以下のマニュアルに記載しております。

「CLUSTERPRO MC RootDiskMonitor 2.7 for Windows HW-RAID 監視機能 ユーザーズガイド」

目次

1. はじめに	1
2. RootDiskMonitor の運用メッセージ	2
3. その他のメッセージ	3
3.1. サービス起動に関するメッセージ	3
3.2. プロセス間通信に関するメッセージ	3
3.3. コンフィグレーションに関するメッセージ	4
3.4. ライセンス管理に関するメッセージ	9
4. 障害解析情報の採取	10
4.1. 本製品の障害解析情報	10

1. はじめに

本書での表記規則について、下記のように定義します。

記号表記	使用方法	例
【】	ファイル名およびフォルダ名の前後	【インストールフォルダ】¥HA¥RootDiskMonitor ¥conf¥rdm.config

2. RootDiskMonitor の運用メッセージ

特に重要度の高いメッセージを記載します。

これらのイベントログメッセージを警報対象として監視することを推奨します。

- TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

エラー

パスがDownになりました。(パス = 'パス情報')

説明: TestI/O でパスレベルの異常を検出

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

- SAN-Boot 構成で自動閉塞を設定しており、TestI/O のリソース監視で異常を検出した場合

情報

自動閉塞が完了しました。(パス='パス情報')

説明: TestIOFaultAction にBlockPath が設定されている場合に、TestI/O でパスレベルの異常を検出時に閉塞を行います。

処置: I/O パス異常を検出したので、早急に該当ディスクの点検を行ってください。

3. その他のメッセージ

その他のメッセージの説明を記載します。

これらのイベントログメッセージはディスク装置の故障ではなく、サービスの内部的なエラーや情報のため警報対象として監視することは不要です。

3.1. サービス起動に関するメッセージ

レジストリからインストールパス情報が取得できませんでした。

説明:レジストリに RootDiskMonitor の情報がない可能性があります。

処置:レジストリの情報を確認してください。情報がない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

無効なドライブレターが監視対象にされています。[DriveLetter = {xxx}]

説明:rdm.config ファイルに定義されている DRIVELETTER の情報が、物理ディスク上に構築された OS ディスク情報と一致していない可能性があります。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

設定ファイルに監視対象のディスクが記載されていません。

説明:rdm.config ファイルに監視対象となるディスク情報が定義されていません。

処置:監視対象を手動で記載するか、Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

SPSからSerialNumberが取得できません。(Disk=X)。

説明:SPSからSerialNumberが取得できません。

処置:システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

SPSからLDNumberが取得できません。(Disk=X)。

説明:SPSからLDNumberが取得できません。

処置:システムの再起動を行ってください。
システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

3.2. プロセス間通信に関するメッセージ

サーバチャネルの作成に失敗しました。(xxx)。

説明:Rdmdiagd.exe がプロセス間通信の設定に失敗しました。

処置:システムの再起動を行ってください。システムの再起動を行っても異常が改善されない場合は、障害解析情報を採取し、サポートセンターに連絡してください。

3.3. コンフィグレーションに関するメッセージ

【インストールフォルダー】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config が見つかりません。

説明:RootDiskMonitorの起動(設定ファイル

【インストールフォルダー】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config の
オープン)に失敗しました。

処置:設定ファイルが存在しません。

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

**【インストールフォルダー】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf¥rdm.config の
読み込みに失敗しました。**

説明:rdm.config ファイルを正しく読み込むことができませんでした。

処置:rdm.config ファイルの内容が不正な可能性があります。

不正箇所についてのメッセージも同時に出力されますので、
ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで 設定ファイルの自動生成を行ってください。

システム定義ファイルのフォーマットが不正です。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに設定可能なエントリではないエントリが
記載されています。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault の設定可能範囲は6~2147483647です。(xxx)

TimeDiskFault は default の値(60)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskFault に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(60)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskFault のフォーマットが不正です。(TimeDiskFault xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskFault が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTestIOInterval の設定可能範囲は1~86400です。(xxx)

TimeTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeTestIOInterval に設定可能な
値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeTestIOInterval のフォーマットが不正です。(TimeTestIOInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeTestIOInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval の設定可能範囲は0~2147483647です。(xxx)

TimeReadInterval は default の値(0)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeReadInterval に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(0)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeReadInterval のフォーマットが不正です。(TimeReadInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeReadInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

OverAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnableです。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている OverAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

OverAction のフォーマットが不正です。(OverAction xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている OverAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall の設定可能範囲は6~86400です。(xxx)

TimeDiskStall は default の値(360)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskStall に設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(360)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TimeDiskStall のフォーマットが不正です。(TimeDiskStall xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TimeDiskStall が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction の設定可能な値は

ServiceCmdDisable, ServiceCmdEnableです。(xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DiskStallAction のフォーマットが不正です。(DiskStallAction xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DiskStallAction が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval の設定可能範囲は1~108000です。(xxx)

WaitTestIOInterval は default の値(5)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(5)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

WaitTestIOInterval のフォーマットが不正です。(WaitTestIOInterval xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている WaitTestIOInterval が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode の設定可能な値は Inq, InqTur, InqTurRead, Readです。(xxx)

TestIOMode は default の値(InqTur)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOMode に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(InqTur)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOMode のフォーマットが不正です。(TestIOMode xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOMode が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO の設定可能な値は ENABLE, DISABLEです。(xxx)

TestIOModeMPIO は default の値(DISABLE)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO に
設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(DISABLE)で起動します。

処置:特に必要ありません。

- ※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。
出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOModeMPIO のフォーマットが不正です。(TestIOModeMPIO xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOModeMPIO が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、
Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BootType の設定可能な値は LocalDisk, SanBootです。(xxx)

BootType は default の値(LocalDisk)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている BootType に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(LocalDisk)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

BootType のフォーマットが不正です。(BootType xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている **BootType** が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction の設定可能な値は BlockPath, ActionNoneです。(xxx)

TestIOFaultAction は default の値(ActionNone)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている TestIOFaultAction に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(ActionNone)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

TestIOFaultAction のフォーマットが不正です。(TestIOFaultAction xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている **TestIOFaultAction** が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

MultipathType の設定可能な値は PowerPath, SPS, HDLM, MPIOです。(xxx)

MultipathType は default の値(MPIO)を設定しました。

説明:rdm.config ファイルに定義されている MultipathType に

設定可能な値以外が設定されていたため、デフォルト値(MPIO)で起動します。

処置:特に必要ありません。

※ 修正しない場合、起動時に毎回出力されます。

出力されないようにするには、不正箇所を手動で修正するか

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

MultipathType のフォーマットが不正です。(MultipathType xxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている **MultipathType** が不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DRIVELETTER のフォーマットが不正です。(DRIVELETTER xxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DRIVELETTER エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

VOLTYPE のフォーマットが不正です。(VOLTYPE xxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている VOLTYPE エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP のフォーマットが不正です。(GROUP xxxx yyyy)

説明:rdm.config ファイルに定義されている GROUP エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

DISK のフォーマットが不正です。(DISK xxxx)

説明:rdm.config ファイルに定義されている DISK エントリが不正です。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

GROUP エントリがありませんが、DISK エントリが記述されています。

説明:rdm.config ファイルに定義されている DISK エントリより上に

GROUP エントリが記載されていません。

処置:ファイル内の不正箇所を手動で修正するか、

Rdmconfig コマンドで設定ファイルの自動生成を行ってください。

3.4. ライセンス管理に関するメッセージ

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うホストIDで生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。ホスト情報が一致していません。

処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。コードワードは違うプロダクトキーで生成されています。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが一致していません。

処置:発行されたコードワードが正しく登録できていることを確認してください。

ライセンスチェックに失敗。プロダクトキーは存在しません。

説明:ライセンス認証に失敗しました。有償ロックキーが登録されていません。

処置:ライセンスファイルに有償ロックキーを登録してください。

ライセンスチェックに失敗。ライセンスは期限切れです。

説明:ライセンス認証に失敗しました。試用期限を過ぎています。

処置:正式版ライセンスを登録してください。

ライセンスツールがインストールされていません。

説明:ライセンスツールがインストールされていません。

処置:ライセンスツールをインストールしてください。

After YYYYMMDD, monitoring function is stopped.

説明:ライセンス認証に失敗しました。

YYYYMMDD までは通常どおり使用できますが、経過後は機能制限を行います。機能制限中は障害が検知されません。

処置:発行されたコードワードを登録してください。

Monitoring stop until activation succeeded.

説明:ライセンス認証に失敗しました。

正しいコードワードの登録が確認できるまで RootDiskMonitor の機能が制限されます。機能制限中は障害が検知されません。

処置:発行されたコードワードを登録してください。

4. 障害解析情報の採取

本製品運用中に何らかの障害が発生した場合は、下記の手順にしたがって情報採取を行ってください。

4.1. 本製品の障害解析情報

本製品では、動作履歴をトレースファイルに取得していますので、障害解析資料として、以下の情報を採取してください。なお、トレースファイルは、サイクリックログとなっているため、ディスク容量を圧迫することはありません。

ホスト情報

本製品を実行しているホスト上で、以下の情報を採取してください。

- RootDiskMonitor 構成ファイル群
RootDiskMonitor の構成ファイル群を保存します。
Zip などを使用して、以下に示すフォルダー配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥RootDiskMonitor¥conf

【インストールフォルダー】¥HA¥RootDiskMonitor¥log

- RootDiskMonitor パトロールシーク機能構成ファイル群
RootDiskMonitor パトロールシーク機能の構成ファイル群を保存します。
Zip などを使用して、以下に示すフォルダー配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥MDMPSEEK¥conf

【インストールフォルダー】¥HA¥MDMPSEEK¥log

- RootDiskMonitor HW-RAID 監視機能関連ファイル群(HW-RAID 監視機能利用時)
RootDiskMonitor HW-RAID 監視機能の構成ファイル群を保存します。
Zip などを使用して、以下に示すフォルダー配下のすべてのファイルを採取してください。

【インストールフォルダー】¥HA¥HWRAID¥conf

【インストールフォルダー】¥HA¥HWRAID¥log

※RootDiskMonitor HW-RAID 監視機能の監視定義ファイルを編集し、dumpファイルの出力先をデフォルトから変更している場合は、監視定義ファイルに記載しているフォルダー配下のdumpファイルを含めて保存してください。

- イベントログ
障害発生時のイベントログファイルを保存します。

アプリケーションログ

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥Application.evtx

システムログ

【 windir 】¥System32¥winevt¥Logs¥System.evtx

コマンド出力結果 **運用管理コマンド** の以下の出力結果

【インストールフォルダー】%HA%RootDiskMonitor%bin%Rdmadmin
【インストールフォルダー】%HA%RootDiskMonitor%bin%Rdmadmin -c param

diskpart コマンドの以下の出力結果

list disk
list volume
list partition (※1)
spscmd -getlun -a (※2)
または
spadmin /lun /a (※2)
powermt display dev=all (※3)
dlnkmgr view -lu -item (※4)
powershell gwmi -namespace "root%wmi" MPIO_GET_DESCRIPTOR(※5)
【SSACLI インストールパス】%ssacli.exe ctrl all show config (※6)
【SSACLI インストールパス】%ssacli.exe ctrl slot=<コントローラーの番号> LD all show detail (※6,7)
powershell "gwmi -namespace 'root%CIMV2' Win32_DiskDrive | select * (※8)

(※1) すべてのディスクの結果を取得

(※2) SANboot 環境で StoragePathSavior を使用している場合

(※3) SANboot 環境で PowerPath を使用している場合

(※4) SANboot 環境で HDLM を使用している場合

(※5) SANboot 環境の場合

(※6) HW-RAID 環境で HPE Smart Storage Administrator をご利用の場合

(※7) 監視しているすべてのRAIDコントローラーの結果を取得

(※8) パトロールシーク機能をご利用の場合

クラスター関連
ファイル

(※)クラスター関連ファイルについては各クラスターウェア製品により異なりますので、製品ごとにマニュアルを参照してください。

CLUSTERPRO X によるクラスター構成の場合 clplogcc コマンド実行して収集します。

使用するコマンド : clplogcc -o 【収集情報格納先フォルダー】

- 操作ログ
再現方法が明確な場合は、操作ログを採取してください。

CLUSTERPRO
MC RootDiskMonitor 2.7 for Windows

CLUSTERPRO
MC StorageSaver for BootDisk 2.7 (for Windows)

イベントログメッセージ一覧

2022年4月 第11版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL (03) 3454-1111(代表)

© NEC Corporation 2022

日本電気株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

保護用紙